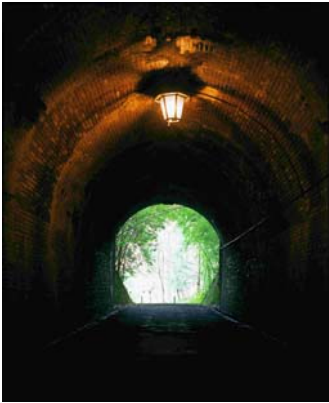


観光社会資本の事例

テーマ	歴史の風吹く峠のオアシス
【施設の状況写真】	
	
道路利用者の休憩施設を備えるとともに歴史・文化・地域との結びつきも強い。(静岡市側下り)	明治9年に日本最初の有料トンネルとして明治トンネルが開通。他に大正・昭和・平成に掘られたトンネルがある。出展：「東海道宇津ノ谷峠」
【施設の利用写真】	
	
明治トンネル(管理：静岡市、岡部町)は現在、遊歩道として整備され、国登録有形文化財である。	幕末に建てられた旅籠を修復した歴史資料館。
【観光資源としての利用状況】	
「道の駅」宇津ノ谷峠は、峠を挟んで静岡市側と岡部町側に駐車場や物産館など3つの施設を持つ全国でもめずらしい構成をもつ「道の駅」です。物産館では、地域の連携、交流を目的として、地元で生産される農産物を中心に、新鮮な自然の恵みを販売し新たな観光資源として利用されています。 また、以前から宇津ノ谷峠地域には伊勢物語にも取り上げられた「鶯の細道」や明治、大正、昭和、平成それぞれの時代のトンネルがあり、歴史や文化を感じる観光資源として利用されてきました。	

テーマ	歴史の風吹く峠のオアシス
【社会資本の基礎データ】 ○ 名称 「道の駅」宇津ノ谷峠 ○ 所在地 静岡県静岡市宇津ノ谷 82-2 (静岡市側下り) 静岡県志太郡岡部町岡部 2190-1 (岡部町側上り) ○ 事業名 平成10年度 岡部道の駅構内整備工事等 ○ 事業主体 静岡国道事務所(駐車所、トイレ、情報館)・静岡市・岡部町 ○ 事業期間 平成10年～平成11年	
【社会資本の役割・効果】 静岡県内の国道1号は、「道の駅」富士ただ1つだけとなっており、休憩所が限られていたことから、路肩に駐車するトラックが増える等の弊害が懸念されていた。 そのため、平成11年に国道1号岡部バイパスの4車線化と同時に「道の駅」宇津ノ谷峠が造られた。 「道の駅」宇津ノ谷峠の開駅により、駐車禁止箇所における駐車車両に起因する混雑の緩和、道路情報・観光情報の発信、地域連携の拠点となる施設としての役割を補っている。	
【位置図】	
【関連ホームページ】 中部地方整備局 http://www.cbr.mlit.go.jp/michinoeki/shizuoka4.html 静岡市 http://www.city.shizuoka.jp/deps/doro/koukikaku/michinoeki/html	